

第1回 サイバーポート進捗管理WG（港湾インフラ分野）議事概要

【意見交換】

（委員）

- ・ サイバーポート（港湾インフラ分野）の構築により、様々な情報の連携が進むことで、効率的な港湾運営の実現、老朽化対策にも寄与するものと考えており、積極的に進め、協力していきたい。
- ・ 港湾管理者の費用負担について、負担方法等の詳細を教えてください。当港は施設数が多く、残っているデータが紙のみしかない古い施設も多く抱えており、データを整理し、電子化を行うだけでも膨大な労力が必要。
- ・ 今後の図面の更新作業はこれまでと同様に管理者にお願いしたい考えと記載があるが、費用もかかるため、ご支援を検討頂きたい。
- ・ 将来的なシステム運用について、システム管理や図面更新など、全て港湾管理者の負担での実施は難しいと感じている。今後のシステムの管理・運営の費用負担も含め、ご支援を検討頂きたい。

（委員）

- ・ 費用負担について、負担方法等の詳細を教えてください。
- ・ また、関係業界団体もシステム利用者と想定している中で、そうした利用者も含めた利用負担はどのようなになるのか。
- ・ 災害対応に関しても検討頂きありがたいが、被災時の本省報告などの関係業務について、災害関係部署との調整はできているのか。
- ・ アクセス権限（案）で「利用者」とあるが、任意のアクセス権を許容するのか。所属やメールアドレスなどの情報を登録後に利用開始とする方法も考えられる。一方で、広報の意味合いから広く公開するとの趣旨か。事務局のお考え方を伺いたい。

（委員）

- ・ アクセス権限（案）で、民間の港湾施設を管理している民間事業者は「登録利用者」になると思うが、アクセス権限として「r：読み込み」しかない。「w：書き込み」の権限も与える必要があるのではないか。
- ・ サイバーポート（港湾インフラ分野）が稼働することで、多数の情報が取得できるようになると考えている。活用にあたり検索機能や集約機能等を活用したアセットマネジメント手法の検討、新たな活用方法の検討を行いたい場合、システム管理者とコミュニケーションが取れるような会議室のようなものがあれば便利である。サイバーポート上に作ることが出来ないのか検討頂きたい。

（委員）

- ・ サイバーポート（港湾インフラ分野）は有用なシステムと感じており、今後もシステム構築に関する協力等しっかりと取り組んでいきたい。
- ・ アクセス権限（案）で、工事受注者への編集権限の付与機能について、港湾管理者が設定できるよう

にするのが望ましい。システム管理者が港湾管理者と契約する工事受注者毎に、個別に付与するのは非効率ではないかと思う。

- ・ 港湾管理者の費用負担について、考え方等の詳細を教えてください。

(委員)

- ・ 図面の CAD データの形式について、DWG ではなく SXF を検討することだが、DWG も採用頂きたい。
- ・ 図面の更新については、更新頻度の目安を提示頂きたい。データの整理等に時間がかかり、更新するにしても労力が必要になる。
- ・ 他の管理者からもあったが、災害時には関係部署との連携がスムーズに取れるようなシステムを構築頂きたい。
- ・ タブレット、スマートフォンを使った定期点検の診断を外部で行う機能だが、外部で入力を行う際、誤入力起きる可能性がある。誤入力の防止策として、編集途中での一時保存等も考えられ、編集中・入力完了が分かるような機能が良かった方がいい。
- ・ システムの活用例として「企業立地の促進」が記載されており、素晴らしい活用だと感じている。継続して検討頂きたい。
- ・ 費用負担に関しては他の港湾管理者と同様に懸念している。

【事務局】

- ・ 時間の都合もあり、各委員共通の確認事項を本日回答し、協議が必要な項目等については別途事務局よりご連絡させて頂くことで対応を考えている。
- ・ 引き続き直轄事業の中から費用負担頂き、運営していきたいと考えているところで、費用負担の考え方、港湾管理者への負担の詳細について整理し、改めてご連絡したい。
- ・ システムの機能に関するご意見で、民間施設を管理する民間事業者へのアクセス権限（w：書込み）の付与等、必要性が高いと感じた意見もあった。CAD データの図面形式なども、対応を検討していきたいと考えており、貴重なご意見をありがとうございます。
- ・ 図面データの更新等に係る作業に対する支援に関しては我々と港湾管理者との関係でどこまで出来るのか等も踏まえ、今後検討していきたい。
- ・ システム管理者とコミュニケーションが取れるような会議室については、システムのサポートセンターを用意しようと考えているが、システム管理者との連絡方法、体制等について、今後検討していきたい。

(座長)

- ・ 費用負担の考え方やアクセス権限については、システムの根幹に関わる事柄であるから、事務局で対応をまとめて頂きたい。
- ・ システムの更新改良の要望は、個別に調整して頂いて対応を詰めて頂きたい。

(委員)

- ・ 他の港湾管理者と同様に紙データを含む膨大なデータがあり、データを整理し、電子化を行うには労力が必要。

- ・ 毎年発生するシステムの維持・更新等の運用費用について、全体で発生する利益と、各港湾管理者や一般利用者が利益を受ける方がいることを考慮し、費用負担に関して検討頂きたい。
- ・ 港湾管理者を含めた使用者の、使い勝手の良いシステムになるよう検討頂きたい。

(委員)

- ・ 2022年度中の運用開始と記載があるが、プロトタイプ対象港に対しては、今後運用に向けた詳細なスケジュールが示されるものと考えている。
- ・ 災害時のサイバーポート（港湾インフラ分野）の運用について、慎重に検討していく必要がある。災害時の初動は迅速に、正確に情報伝達を行う必要があり、運用開始は早期が望ましいものの、災害時の運用については訓練での活用も踏まえるなど、段階を踏んで検討頂きたい。
- ・ 2022年度中に具体的にどういった取組みを行う予定なのか、また今後のWG開催予定が決まっていれば教えて頂きたい。

(委員)

- ・ 図面データの更新や入力について、時間と費用が掛かることをご考慮頂きたい。
- ・ システム運用の費用負担について、港湾管理者としてある程度利益を受けるものとして理解はしているものの、港湾管理者の過度な負担にならないようご考慮頂きたい。

(委員)

- ・ システム運用の費用負担や、図面の更新・入力作業の費用について、交付金等で支援いただく等、ご検討頂きたい。
- ・ システムの機能について各種追加されており、有効活用しやすい一方で、使いやすさの観点では複雑になりがちな印象がある。マニュアルの作成や研修の実施など、随時取り組んで頂きたい。

(委員)

- ・ 独自のシステムを構築中のため、資料にありましたとおり連携を効率的に行えるよう、今後ご相談させて頂ければと思う。

(座長)

- ・ 意見のあった今後の進め方、港湾管理者の負担金や図面の入力・更新について、ご回答頂きたい。

【事務局】

- ・ 今年度のスケジュールとして、現在構築・テスト中で、今年中の完了を目指し作業している。来年を目途に委員の方に活用頂けるようになる予定である。その前には、もう一度WGの開催を考えている。
- ・ 費用負担については、現在構築中の段階で、今後の運用費用についても、直轄事業の港湾管理者の負担金という形で負担いただくことを考えている。
- ・ 災害対応時の活用方法は、本省担当部署及び港湾管理者等と調整していきながら、災害対策機能の詳細を詰めていきたいと考えている。

- ・ 図面データの更新等に係る作業に対する支援に関しては我々と港湾管理者との関係でどこまで出来るのか等も踏まえ、今後検討していきたい。

(委員)

- ・ アクセス権限について、「受注者」「登録利用者」「一般利用者」で分かれているが、あまり差が感じられない。コンサルが業務を受注するとき、サイバーポート（港湾インフラ分野）を通じて情報をやり取りできれば、業務の効率化につながると考えている。そういった観点でも検討頂きたい。
- ・ 業界団体向けにアクセス権限を作っていたら、その権限であればある程度の情報が見られるようにするなどの整理があるとありがたい。
- ・ 業務、工事の受注時と受注時以外のアクセス権限を分ける考えは理解できるが、システムそのものの権限管理が複雑化することが想定される。包括して権限を与えるような手段も検討頂きたい。
- ・ 業務を受注して、取得したデータをサイバーポート（港湾インフラ分野）に直接アップした方が良い業務もあるかと思う。維持管理の業務を受注し、その結果を登録する際、港湾管理者の権限を一時的に使用するなどの運用も考えられる。現在のアクセス権限では受注者に「r：書込み」が無いが、そういった場面も想定し、権限や運用に関して検討頂きたい。

(委員)

- ・ 当協会では現在 BIM/CIM 化を進めており、業務効率化に向けた施工情報の提供などで協力できると考える。
- ・ 災害発生時に関しては東日本の際もそうだったが、海上から陸上へ物資を供給するため、海上の障害物を撤去する啓開を速やかに実施することが重要となる。その際、関係者間でリアルタイムかつ正確に情報共有することはとても有効となる。当協会では、ドローンや作業船へのカメラ搭載などで情報収集することができ、災害時にデータを集約する先として、サイバーポート（港湾インフラ分野）の活用が考えられる。データの収納先や活用する際のルール作りをしておいて頂ければ、今後のスムーズな対応に繋がると考えている。

(委員)

- ・ サイバーポートの今後の活用に期待している。
- ・ 資料の表記について一部再考頂きたい。資料の「老朽化の情報を踏まえ」や、「老朽化を踏まえた技術支援」の言葉があるが、現状ではサイバーポート（港湾インフラ分野）に登録されている性能低下度の情報は、施設を代表とする情報しか見られない。現状活用している維持管理情報 DB も同様である。特に性能低下が進行している施設の技術支援を行うには、何が原因で老朽化が進行しているのか把握することが重要と考えているため、資料の表現を再考頂きたい。
- ・ 移動端末からの点検結果、施設情報を登録する機能に関しては、サイバーポート（港湾インフラ分野）に実装する利点を整理いただきたい。

(委員)

- ・ サイバーポート（港湾インフラ分野）の特徴としては、港湾管理者や民間所有のデータを API 接続等

で接続するだけでなく、それ以外の港湾管理者や民間事業者の所有しているデータをサイバーポートで運用していくのが特徴である。その際のデータの管理責任はだれにあるのかが、他のシステムとは違う。港湾管理者等が提供したデータについて、国が管理することによって責任が曖昧になることも想定される。そのあたりの権限管理についても、今後検討していく必要がある。

- ・ 内部システムと外部システムについてだが、サイバーポート（港湾インフラ分野）の中にある情報はもちろんだが、外部のクラウド上にあるシステムはサイバーポートで管理するのか、もしくは外部システムとして管理していくのか、改めて定義を踏まえて整理頂きたい。

(委員)

- ・ 当方では構築作業を本省と協力し実施している。
- ・ 港湾の情報化、システム化は現在の紙での業務の課題が顕在すること、あるいは現場の色々な課題に対応していく必要がある。将来の見通しをもって構築していく必要もある。
- ・ 委員の中の利用される港湾管理者様の意見を聞き、改めて利用される方の意見を聞くことの重要性を認識した。
- ・ 政府全体の情報化の流れに港湾分野も遅れることなく、皆様と一緒に前に前に進めていくことが重要と感じた。
- ・ アクセス権限については、セキュリティに関わる部分であり、より一層のブラッシュアップが必要と感じている。

【事務局】

- ・ アクセス権限について、「登録利用者」と「一般利用者」の違いについて、既に国交省 DPF で公表されている情報に関しては同様に閲覧できるようにする予定。「登録利用者」に関しては、港湾台帳など港湾法上で閲覧が位置付けられているものは、登録することで見られるようにすることを案として考えている。
- ・ 権限管理については、責任の所在等も踏まえて今後も整理していきたい。今後詳細について詰めていき、委員の方と意見の共有を図りながら更新していきたいと考えている。
- ・ BIM/CIM や施工との関係については、外部クラウドに入れるのか、サイバーポート（港湾インフラ分野）に入れるのか、BIM/CIM 側の担当とも相談し、今後詰めていく予定である。
- ・ 維持管理に関する表現としては、現在の表示は施設の性能低下度になっているが、今後維持管理情報 DB のあり方も検討し、分析できるように部材毎の劣化度の情報や、その他の情報も入力していく必要があるのかなど、今後、検討予定である。移動端末での入力に関しては、その前にもう 1 ステップこういった情報が老朽化の検討に役立つのかといった点を考慮する必要があると感じている。今後の検討も踏まえて、対応を考えていく。

(委員)

- ・ プロトタイプができたことで、システムのイメージが付き、指摘・要望が具体的に上がっており、今後システムがより良いものになっていくことを切に期待している。

- ・ システムの活用方法を今からしっかりと想定し、1つは物流・管理・インフラの3分野連携で活用されると思うが、インフラのみで活用を考えるとイメージが難しいところ。1つは災害時の対応が考えられ、もう1つは資料にもあったアセットマネジメントについてが、インフラだけの活用になるかと思う。そこでどういった活用が出来るのか、港湾管理者、関係団体の方にもご検討頂きたい。
- ・ 完成してから活用してみると手遅れだったり、だいぶ先の改良になったりするので、現時点で一度使ってみての方が良いのかなと思う。会議の中でも発言のあった災害時の訓練に活用や、アセットマネジメントであれば予防保全計画の作成時にサイバーポート（港湾インフラ分野）での利用状況を並べてみるなど、活用してみることで使い方のイメージが掴めるかと思う。現時点でも試行的にどんどん使ってみて欲しい。

(座長)

- ・ 意見、疑問点、要望、アドバイスについて、サイバーポート推進室で大事にして頂き、システム反映を検討頂きたい。委員の方については、システム開発に携わっている意識をもって今後ご協力頂ければと考えている。